

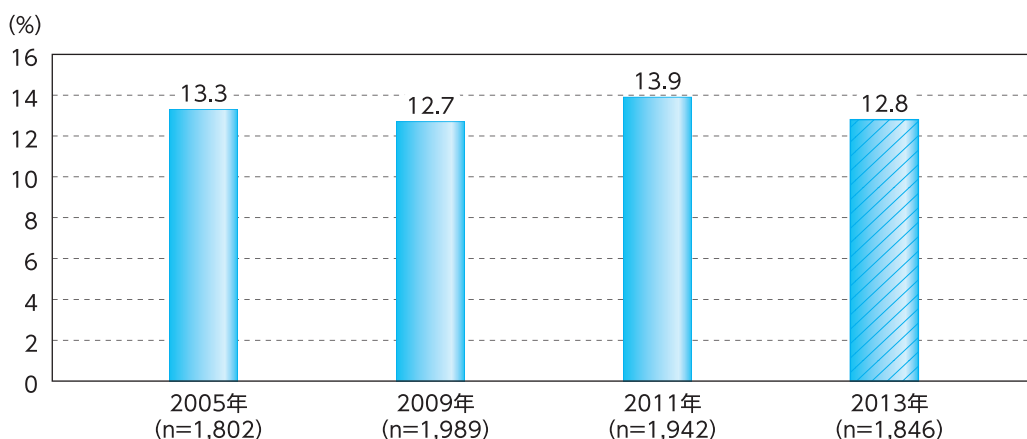
8 スポーツボランティア

8-1 スポーツボランティア実施状況

過去1年間に運動・スポーツ活動の手伝いや世話など、スポーツ活動を支えるボランティア活動（スポーツボランティア）を行ったことがあるかをたずねたところ、「ある」と回答した者は12.8%であり、10代のスポーツボランティア人口は約153万人と推計できる（図8-1）。過去8年間の推移をみると、2005年13.3%、2009年12.7%、2011年13.9%と13%前後で推移しており、大きな変化

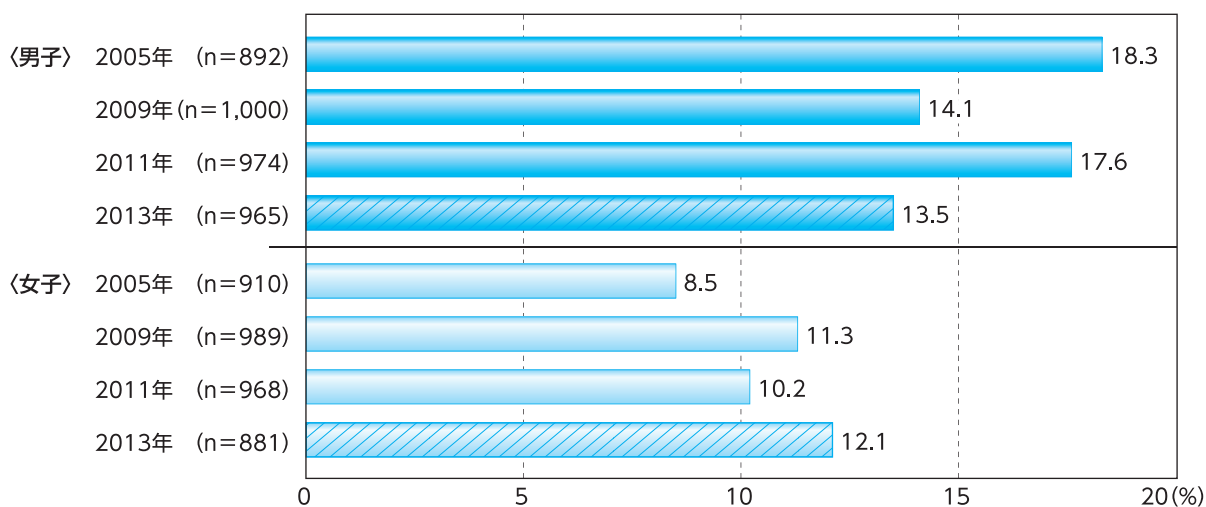
はみられない。

性別にみると、「ある」と回答した者の割合は男子が13.5%、女子が12.1%と男子の方がスポーツボランティア実施率は高い（図8-2）。2011年調査では、男子が17.6%、女子が10.2%と男女の間には7.4ポイントの差がみられていたが、今回調査では1.4ポイントの差に縮小した。



【図8-1】スポーツボランティア実施率の年次推移

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013



【図8-2】スポーツボランティア実施率の年次推移（性別）

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013

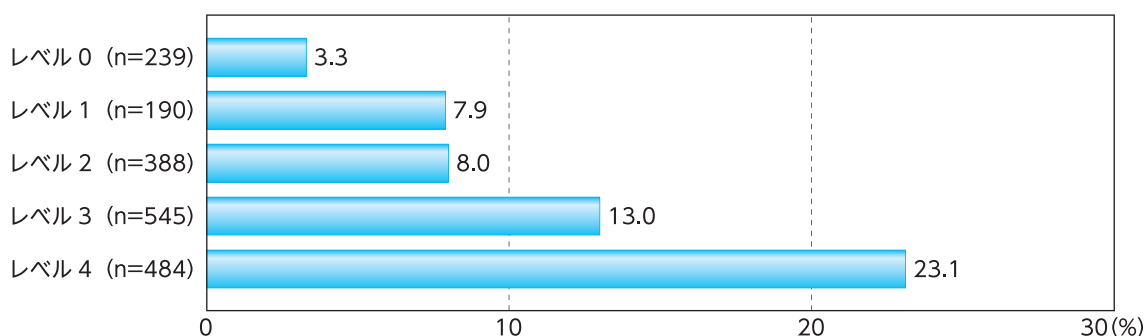
学校期別にみると、「ある」と回答した者の割合は高校期で17.4%と最も高く、以下、中学校期13.3%、大学期10.6%、勤労者10.5%、小学校期7.2%と続く(表8-1)。2011年と比較すると、17%程度であった中学校期、大学期の実施率に減少がみられた。一方、5%程度であった小学校期、勤労者では増加がみられている。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル0」3.3%、「レベル1」7.9%、「レベル2」8.0%、「レベル3」13.0%、「レベル4」23.1%と、レベルが上がるにつれてスポーツボランティアの実施率も高くなる。特に、「レベル4」ではおよそ4人に1人がスポーツボランティアの経験を持つ(図8-3)。

【表8-1】スポーツボランティア実施率の年次推移(学校期別)

2009 年		2011 年		2013 年	
学 校 期	%	学 校 期	%	学 校 期	%
小学校期 (n=410)	6.3	小学校期 (n=373)	5.4	小学校期 (n=389)	7.2
中学校期 (n=625)	15.4	中学校期 (n=589)	17.0	中学校期 (n=586)	13.3
高校期 (n=600)	14.8	高校期 (n=633)	16.3	高校期 (n=558)	17.4
大学期 (n=223)	13.5	大学期 (n=236)	17.8	大学期 (n=199)	10.6
勤労者 (n=90)	8.9	勤労者 (n=83)	4.8	勤労者 (n=86)	10.5

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013



【図8-3】スポーツボランティア実施率(レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013

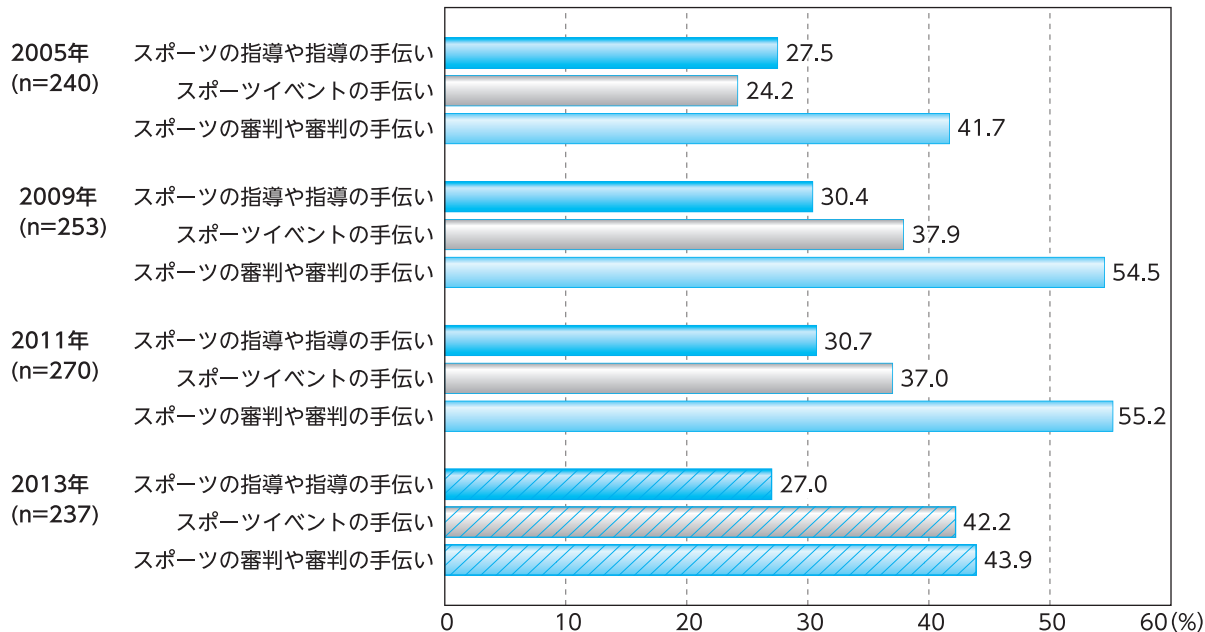
8-2 スポーツボランティアの内容

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、その具体的な内容を複数回答でたずねたところ、「スポーツの審判や審判の手伝い」(以下、「審判」)と回答した者の割合が43.9%と最も高く、次いで「スポーツイベントの手伝い」(以下、「イベント」)42.2%、「スポーツの指導や指導の手伝い」(以下、「指導」)27.0%の順となった(図8-4)。経年的にみると、「指導」は30%前後で推移し、横ばい傾向が続く。「審判」は2009年と2011年では50%を超えており、増加傾向がみられていたが、今回調査では43.9%と2005年と同水準に減少した。一方、「イベント」は2005年は24.2%で

あったが、今回調査では42.2%と増加傾向がみられる。

性別にみると、「審判」と「指導」は男子の方が割合は高く、「イベント」は女子の方が割合は高い(表8-2)。学校期別にみると、「審判」は中学校期をピークとする山型、「イベント」は小学校期をピークとする右下がり型、「指導」は大学期をピークとする右上がり型となり、それぞれの特徴がみてとれる。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「審判」と「指導」は概ねレベルが高くなるにつれて割合も高くなっているが、「イベント」は逆にレベルが高くなるにつれて割合が低くなる特徴がみられた。



【図8-4】スポーツボランティアの実施内容の年次推移(複数回答)

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013

【表8-2】スポーツボランティアの実施内容(性別・学校期別・レベル別：複数回答)

(%)

実施内容	男子 (n=130)	女子 (n=107)	小学校期 (n=28)	中学校期 (n=78)	高校期 (n=97)	大学期 (n=21)	勤労者 (n=9)	レベル0 (n=8)	レベル1 (n=15)	レベル2 (n=31)	レベル3 (n=71)	レベル4 (n=112)
スポーツの審判や審判の手伝い	48.5	38.3	21.4	59.0	43.3	38.1	22.2	0.0	20.0	41.9	29.6	59.8
スポーツイベントの手伝い	38.5	46.7	64.3	34.6	39.2	42.9	55.6	75.0	60.0	51.6	45.1	33.0
スポーツの指導や指導の手伝い	30.0	23.4	17.9	25.6	27.8	38.1	33.3	0.0	13.3	22.6	35.2	26.8

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013

8-3 スポーツボランティアのきっかけ

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、実施のきっかけを複数回答でたずねたところ、「先生や指導者に言われたから」と回答した者の割合が最も高く、62.9%であった(表8-3)。次いで、「自分でやりたいと思ったから」30.4%、「友だちに誘われたから」10.1%、「家族に言われたから」6.3%の順となっている。

「自分でやりたいと思ったから」という、いわば自発的意思を契機とした者は3割程度であり、多くが「先生や指導者に言われたから」や「友だちに誘われたから」といった、先生や指導者、友人、家族などの誘いを契機として実施していることがわかる。しかし、過去4年間の推移をみると、「先生や指導者に言われたから」は減少傾向にあるが、「自

分でやりたいと思ったから」は増加傾向にある。

性別にみると、男子は「先生や指導者に言われたから」の割合が69.2%であり、女子の55.1%に比べて高い(表8-4)。一方で、「自分でやりたいと思ったから」は男子24.6%、女子37.4%と女子の方が割合は高く、自発的意志によるスポーツボランティアを行っていることがわかる。

学校期別にみると、中学校期・高校期で「先生や指導者に言われたから」の割合が比較的高い。一方で、「自分でやりたいと思ったから」が最も高いのは大学期であった。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、レベルが上がるにつれて、「先生や指導者に言われたから」の割合が高くなる。「自分でやりたいと思ったから」は「レベル1」「レベル2」「レベル3」で比較的高かった。

【表8-3】スポーツボランティアのきっかけの年次推移(複数回答)

(%)

きっかけ	2009年 (n=253)	2011年 (n=269)	2013年 (n=237)
先生や指導者に言われたから	66.8	64.7	62.9
自分でやりたいと思ったから	28.1	26.0	30.4
友だちに誘われたから	14.2	17.5	10.1
家族に言われたから	5.5	6.3	6.3
覚えていない	3.6	2.6	4.6

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013

【表8-4】スポーツボランティアのきっかけ(性別・学校期別・レベル別: 複数回答)

(%)

きっかけ	男子 (n=130)	女子 (n=107)	小学校期 (n=28)	中学校期 (n=78)	高校期 (n=97)	大学期 (n=21)	勤労者 (n=9)	レベル0 (n=8)	レベル1 (n=15)	レベル2 (n=31)	レベル3 (n=71)	レベル4 (n=112)
先生や指導者に言われたから	69.2	55.1	42.9	66.7	70.1	52.4	44.4	37.5	40.0	51.6	59.2	73.2
自分でやりたいと思ったから	24.6	37.4	32.1	28.2	28.9	42.9	22.2	12.5	33.3	38.7	35.2	25.9
友だちに誘われたから	8.5	12.1	7.1	7.7	10.3	23.8	11.1	25.0	33.3	6.5	7.0	8.9
家族に言われたから	8.5	3.7	14.3	6.4	5.2	0.0	11.1	12.5	0.0	6.5	7.0	6.3
覚えていない	3.8	5.6	10.7	5.1	3.1	4.8	0.0	0.0	6.7	0.0	5.6	5.4

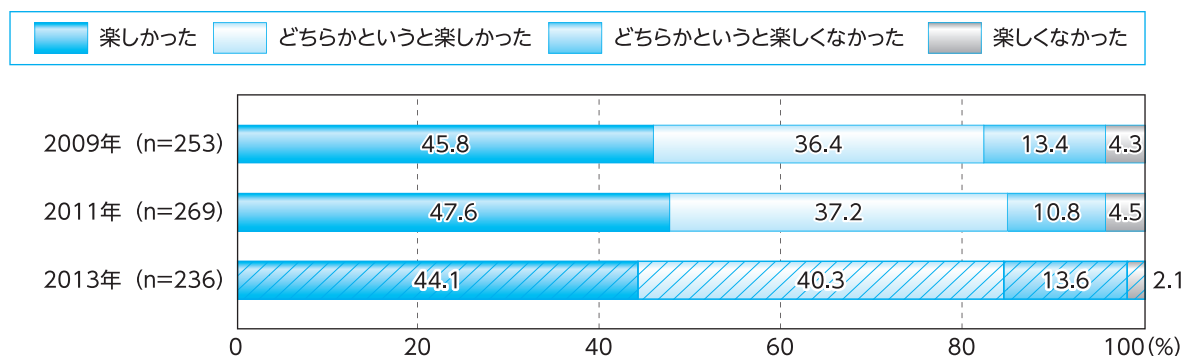
資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013

8-4 スポーツボランティアに伴う楽しさ

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、楽しさについてたずねたところ、「楽しかった」44.1%、「どちらかという楽しかった」40.3%、「どちらかという楽しくなかった」13.6%、「楽しくなかった」2.1%であった(図8-5)。「楽しかった」(「楽し

しかった」+「どちらかという楽しかった」)と回答した者の割合は84.4%を占め、大半が楽しかったとの感想を抱いている。

性別にみると、『楽しかった』の割合は、男子が80.0%、女子が89.6%と女子の方が高く、「楽しくなかった」という



【図8-5】スポーツボランティアに伴う楽しさの年次推移

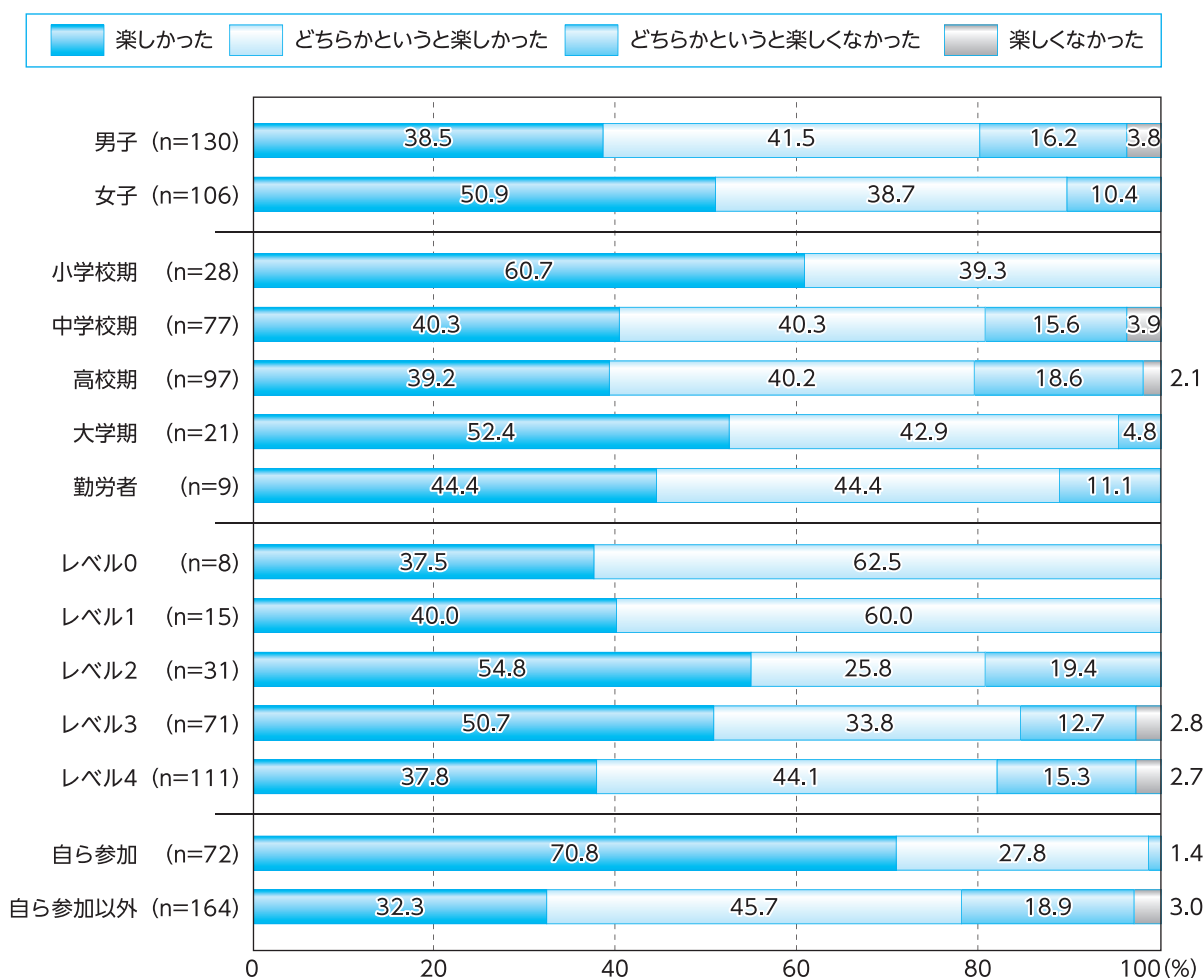
資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013

回答はみられなかった(図8-6)。

学校期別にみると、『楽しかった』の割合は小学校期100.0%、大学期95.3%と、ほぼ全員が楽しかったと回答した。中学校期、高校期では『楽しかった』の割合は8割程度であった。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、『楽しかった』の割合は、「レベル0」「レベル1」では100.0%であるのに

対し、「レベル2」以上では8割程度であった。運動・スポーツの実施レベルに関わらず、8割の者がスポーツボランティアに楽しさを感じていることは、「するスポーツ」と「ささえるスポーツ」の楽しさは独立しており、今後スポーツは行わないが、スポーツボランティアを楽しむというスポーツとの関わり方の可能性が示唆される。



【図8-6】スポーツボランティアに伴う楽しさ(性別・学校期別・レベル別・参加の自主性別)

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013

8-5 スポーツボランティアの実施希望

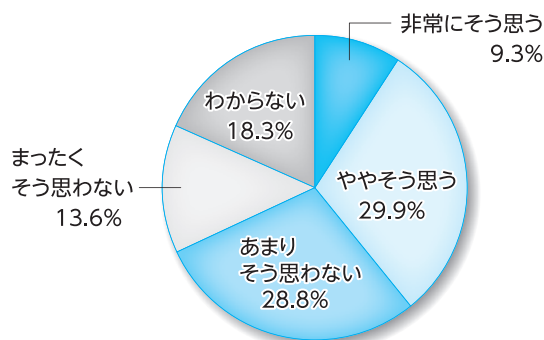
今後、スポーツボランティアをやってみたい、または続けたいと思うかをたずねたところ、「非常にそう思う」9.3%、「ややそう思う」29.9%、「あまりそう思わない」28.8%、「まったくそう思わない」13.6%、「わからない」18.3%で

あった(図8-7)。『そう思う』(「非常にそう思う」+「ややそう思う」)の割合は39.2%と、4割近い10代がスポーツボランティアの実施希望をもっている。

性別、学校期別、運動・スポーツ実施レベル別に『そ

う思う』の割合を示した(図8-8)。性別、学校期別では大きな特徴はみられない。運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル0」17.9%、「レベル1」30.5%、「レベル2」38.7%、「レベル3」42.1%、「レベル4」50.4%と、レベルが上がるにつれて『そう思う』の割合が増加すると

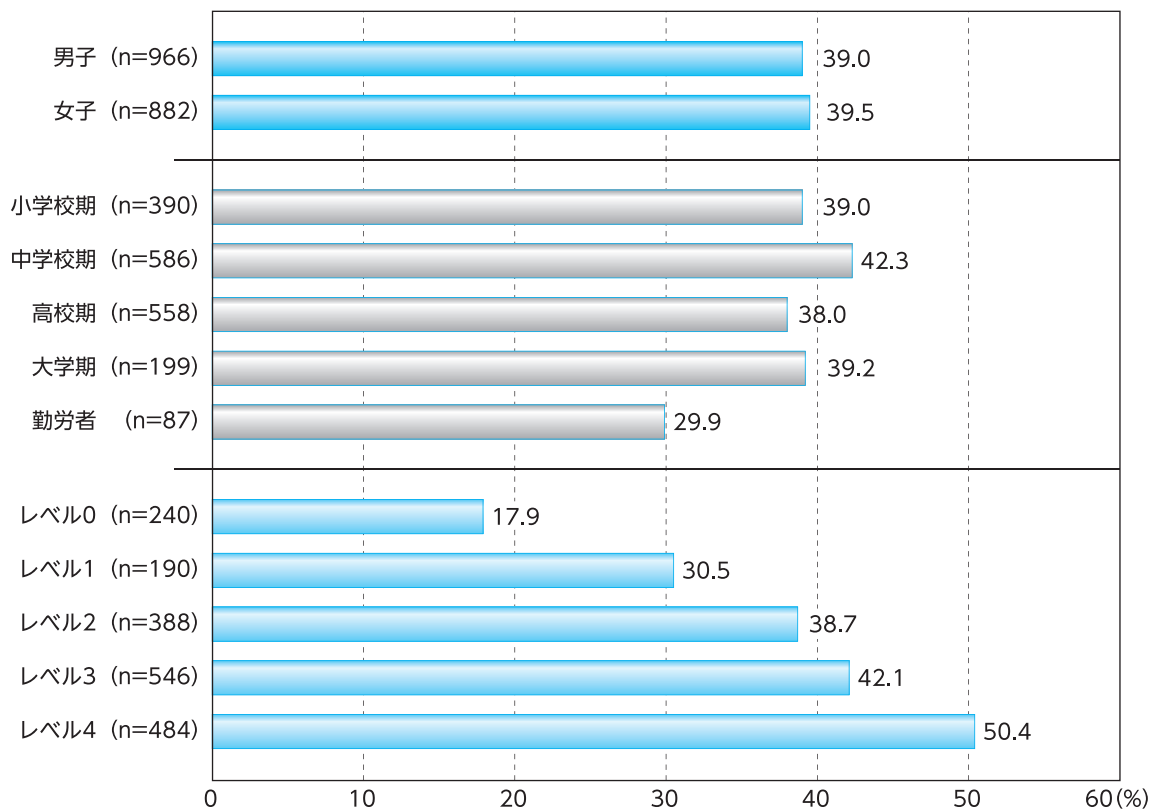
いう特徴がみられた。「レベル4」では5割以上の者がスポーツボランティアの実施希望をもっており、運動・スポーツの実施頻度と今後のスポーツボランティアの実施希望には、積極的に運動・スポーツを行っている者ほどスポーツボランティアに関心を持っていると理解できる。



【図8-7】スポーツボランティアの実施希望率 (n=1,848)

*今後、スポーツボランティアをやってみたいまたは続けたいと思うかについての回答

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013



【図8-8】スポーツボランティアの実施希望率 (性別・学校期別・レベル別)

*今後、スポーツボランティアをやってみたいまたは続けたいと思うかについて、「非常にそう思う」および「ややそう思う」を合計した割合

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013